

ミステリ読書案内

2022.12.4 発行元

第423号 伊藤 剛

<https://mystery-dokuan.com>

エラリー・クイーンの代表作

エラリー・クイーン。私がミステリにのめり込むきっかけになった作家。もちろん全作品を読んでいる。ミステリの基本形を学んだと言ってもよい。どれもが代表作なのだが、あえて3作を選ぶとするならば…。

創元推理文庫で読む

大学入試が終わったその日の帰り道に『Xの悲劇』を買った。他の出版社からも出ていたが、私は創元推理文庫で読むと決めていた。クイーンの作品がきちんと揃っているのは創元だと思っていたから。

そして『Yの悲劇』『ローマ帽子の謎』と進んだ。大学一年の前半で、『国名シリーズ』も『レーン四部作』も読み終えてしまった。ある意味夢中になつて読んだと言ってもよい。それほどの魅力を感じたのだ。

代表作。読む順番からすれば『Xの悲劇』がスタートだろうが、代表

作には『Yの悲劇』を上げないわけにはいかない。海外ミステリNo.1作品として出てくることが多いから。『国名シリーズ』からひとつとすると『オランダ靴の謎』。

あとひとつが難しい。『X』にしても『エジプト』『ギリシャ』にしても、シリーズがダブってしまうから。それで、短編集から選ぶことにして『エラリー・クイーンの新冒険』に決定した。また、後期の代表作については第266号で既に取り上げており、『災厄の町』と『フォックス家の殺人』を紹介している。エラリー・クイーンは若い人たちにも全作品を読んでほしい作家だ。

NO.3「エラリー・クイーンの新冒険」

1935年。第二短編集である。第一短編集『エラリー・クイーンの冒険』でも良かったのだが、本書には屈指の傑作と言われている『神の灯』が収録されている。このトリックと似たような方法を使った作品がその後何作が書かれているので、今の読者はびっくりしないかもしれないけれども、当時の私には本当にサプライズだった。ミステリの面白さはここに尽きると思ったものだ。

『神の灯』が中編で、他は短編集が8作入っている。『血をふく肖像画の冒険』や『人間が犬をかむ』『トロイヤの馬』など良く知られた作品が多い。初期の頃の短編は多くない。でもどの一編も丁寧に書かれている。シャーロック・ホームズ物語的な雰囲気・印象を感じる。

NO.1「Yの悲劇」

1933年。バーナビー・ロス名義で出版した『レーン四部作』の第二作に当たる。ミステリの最高傑作として世界中に知られている。私の手元にある本は創元推理文庫1972年の36版。この文庫の初版は1959年なので、毎年版を重ねるベストセラー本なのだと思う。黄色の背景に黒のドットでYの字がデザインしてある懐かしい表紙。当時200円だった。今の値段は……。

2月2日。化学者で富豪のヨーク・ハッターの死体がニューヨーク湾で発見されたところから始まっている。前年のクリスマス前から失踪していたとのこと。警察は自殺の線を考えてが、検視医は溺死ではなく、毒物死だと言う。でも、たばこ入れの中から自筆の簡単な遺書が出てきて…。続いての章では「きちがいハッター家」の紹介に入る。エミリー・ハッター老婦人と三人の子どもたち。そして家族。世間の噂の数々。4月になり、ハッター家では次なる騒動が勃発していく。サム警部は『Xの悲劇』で知りあった俳優で名探偵のドルリー・レーンを訪ねていくことに。やがてレーンと一緒に捜査活動の中で犯人を推定していく。でも、それは不可能の壁に当たることになってしまう。果たして隠されている真実とは…。有名になり過ぎた驚愕の結末。

No.2「オランダ靴の謎」

1931年。『国名シリーズ』の第三作にあたる。『国名シリーズ』の中でどの作品が一番出来が良いかについてはいろいろな議論・主張があるようだ。私は『オランダ靴』を選ぶ。「読者への挑戦」という形式を設定している『国名シリーズ』の中で最も論理の組み立てが素晴らしく、「なるほど」と思わせる箇所の連続で、本格ミステリとしての完成度は抜群だ。本書に続く『ギリシャ棺』『エジプト十字架』ほど舞台は派手ではないけれども、読者は「犯人当て」を存分に楽しむことができる。

創元推理文庫を開くと多くの登場人物の名前が載っている。読み手が考えながら読むには必要なこと。そして中扉を開けると「オランダ記念病院平面図」が出てくる。大きな手術室。階段式の立会人席が目を引く。この手術室で最初の遺体が発見される。病院の設立者であり、百万長者のアビゲール・ドールン。針金を首に巻かれての絞殺のようだ。たまたま病院を訪れていたエラリー・クイーンは、父親のリチャード警視とともに捜査に当たることに。数多くの関係者がおり、その一人一人との言葉のやり取りが最初のポイントになってくる。解明が進まない間に第二の殺人が…。「読者への挑戦」の後のクライマックスの場面は…。